

日本郵便株式会社と包括連携に関する協定を締結しました

地域経済活性化への取り組みをはじめ、さまざまな活動に連携・協力して取り組むため、6月26日(水)に日本郵便(株)と包括連携協定を締結しました。連携協定は「安心・安全な暮らしの実現」「地域経済活性化」など、多岐にわたる内容です。日本郵便(株)のネットワークを生かし、さまざまな分野で連携していくことにより、地域活性化や暮らしやすいまちの実現につなげていきます。



<協定項目と主な施策など>

- ①安心・安全な暮らしの実現に関すること
 - ・地域見守り活動への協力
 - ・災害発生に備えた取り組み
- ②地域経済活性化に関すること
 - ・オリジナルフレーム切手の企画
 - ・郵便ポストへの二次元バーコード(観光案内、避難所情報)の表示
- ③未来を担う子どもの育成に関すること
 - ・郵便局見学・職場体験の受け入れ
- ④男女共同参画推進に関すること
 - ・広報・啓発への協力
- ⑤その他
 - ・市役所における郵便物などの転居届の設置

同和問題啓発強調月間 市民講演会 「母から娘へ 娘から子へ 今、伝えたいこと ～部落差別から人権を考える～」

7月13日(土)、プラム・カルコア太宰府市民ホールで、坂田かおりさんと愛梨さんの親子を講師に迎えて、同和問題啓発強調月間市民講演会を開催しました。

母親のかおりさんは、「差別されている命、いじめを受けていい命は一つもない」という親が子を思う気持ち、娘の愛梨さんは「リアリティがなく他人事で大人の問題ととらえがちだが、無知は差別につながる」という若い世代の部落差別に対する意識などについて話をされ、最後に「自分を好きと思えること」、「排除をしない、他人を認め合える生き方が大事」、「そのために自分の事として人権問題を考えてほしい」と会場へ向けて願いを発信されました。



講師の坂田かおりさん(左)と愛梨さん

私のだざいふ

太宰府市西校区自治協議会 会長
小柳 幹成 氏



「どちらにお住まいですか」、「太宰府です」、「良いところにお住まいですね」……これは転勤先の他府県での会話である。しかし当時私は、太宰府のことをあまり知らないでいた。

1970年代後半からの空前の貿易黒字は土地投機に流れて土地は永久に上がり続けるといういわゆる「土地神話」が生まれ、庶民はマイホームを持てなくなるという連日の報道を覚えている。その最中、マイホームを夢見ていた私が建売住宅の抽選会場に彷徨い込んで、当選くじを引き当てたのが太宰府(西のはずれ大野城市との境)に住む発端となった。当初は、単にベッドが太宰府市にあるくらいの認識でしかなかったが、自治会の役員などをやるようになり、隣人、地域と接するにつれ、「地域が良くなれば日本が良くなる」と考えるようになって、次第に太宰府に愛着を覚え、高台から宝満山から四王寺山を一望すると何とも心豊かな気分になり、太宰府に居を構えて良かったと思うようになった。

この度の令和が太宰府に大変縁のあるものと判明した瞬間、万歳と叫んでしまった。

佐賀県武雄市と 「災害時相互応援に関する協定」を締結

大規模災害時には、市境を超えて広範囲な地域が被災する可能性が高いため、隣県の公共団体との協力体制が重要です。防災協定においては、同時被災の可能性が低く、かつ、日帰り程度で往来できる距離の範囲内にある自治体と相互応援することができれば、より速やかな対応及び継続的な応援が可能となり、ひいては被害の軽減、減災につながるのではないかと考えます。今回、楠田太宰府市長と小松武雄市長が大学の同級生という縁もあり、佐賀県武雄市と協定締結に至りました。

本協定では、災害ボランティアのあっせんや災害避難者の受け入れを応援内容に新たに加えることで、被災市へ実効性のある支援が可能になります。

この協定を機に両市の職員の交流も図りながら、災害時の応急対策および復旧対策について意見交換を行い、適正な災害対応に備えてまいります。

市では、今後も多種多様な業種の団体・企業などと協定を締結していきます。



特集

混ぜればごみ、分ければ資源
もったりサイクルを推進しよう!
……………2~3
<環境課>

私のだざいふ ……………4

市政ニュース ……………4~5

まちのトピックス ……………6

6月議会楠田大蔵市長
冒頭あいさつ ……………7

10月から幼児教育・保育の無償化が
スタートします
…………… 8
<保育児童課・福祉課>

地域福祉を推進しよう
～支え合う一人ひとりが主人公～
…………… 9
<福祉課>

市からのお知らせ ……………10~12

連載 ……………13~21

なんでも情報コーナー … 22~31

太宰府の文化財 …………… 32
<文化財課>